

# 未来へつなぐ

本年もよろしくお願い申し上げます。

佐倉市議会「さくら会」一同



## 力を合わせ希望を持てるまちへ

さくら会メンバーの新年のごあいさつと抱負



かわなべ みのる  
**川名部 実** 議員

高齢社会への対応はこれからが正念場です。イベント偏重の行政を、住民福祉重視に方向転換させるため、建設的な提言をしていきます。



なかむら こうじ  
**中村 孝治** 議員

今夏の参議院選挙において、18歳まで選挙権が引き下げられます。これまで以上に若者に魅力あるまちづくりを積極的に推進してまいります。



いしわた やすお  
**石渡 康郎** 副議長

国による地方創生の流れを、しっかりと受け止め、少子高齢化対策や地域の活性化のために、佐倉市の秘められた力を、なお一層引き出す努力をしてまいります。



おしお とよゆき  
**押尾 豊幸** 議長

新しい年を迎え、二元代表制のもと気を引き締めて、次世代に負担を強いられることのないよう限りある財源を有効に活用し、効率的で効果的な施策を推進してまいります。



さくらい みちあき  
**櫻井 道明** 幹事長

本年も市民の皆様が安心安全に暮らせる町づくりを心掛けて、少子高齢化社会に対する政策として「若い力」順天堂大学誘致実現に全力で頑張つてまいります。



せいみや まこと  
**清宮 誠** 会長

そば食えば  
音色の違う 除夜の鐘  
佐倉では除夜の鐘の音が複数聞こえて来る。この当たり前のことに初めて気づき感動した。「街づくり」も、当たり前前の良さに気付くことが出発点ではないかと知った。



しきね ふみひろ  
**敷根 文裕** 議員

生まれ育った佐倉のために地域の更なる活性化と市民の皆様からのお預かりしている税金の使い道が公平公正となるように今後も議員活動に努めてまいります。



たかぎ だいすけ  
**高木 大輔** 議員

2月より、さくら会の一員になった高木大輔です。さくら会の一員として、新しい風を吹き込み、佐倉市の発展のためにしっかりと取組んでまいります。



ひらの ゆうこ  
**平野 裕子** 議員

「佐倉」って活気があるね、いい町だねと言われる町づくりのため、皆様の声を市政に反映すべく、発展的な議論を重ね、初志貫徹、全力で行動してまいります。



ためだ ひろし  
**為田 浩** 議員

私は地域の子ども達からたくさんの元気をもらっています。佐倉が子ども達の元気な笑顔と笑い声のまち日本こゝと働いてまいります。



むらた じょうじ  
**村田 穰史** 議員

本年も是非々々の姿勢を貫き、役所体質からの脱却を早期に実現するとともに、議会が行政の監視役として、その役割を確実に果たせるよう活動していきます。



やまぐち ぶんめい  
**山口 文明** 議員

市民の皆さんからの建設的な要望や提言を生かして、それらを具現化させることが大切です。ともに力を結集して、さらに住みよい佐倉を築きましょう。



# やぐらららら議員の一般質問

## 8月定例議会 代表質問



櫻井 道明  
議員

### 今後の財政見通しについて

**問** 平成26年度決算の財政指標は、他の類似団体との比較では、それほど悪い状況ではないが、財政の硬直化は今後の課題である。26年度の財政状況を踏まえ、今後の財政見通しを伺う。

**答** 26年度の財政状況は、実質単年度収支が黒字であることなどから、財政の健全性は確保できていると考える。今後は、地方創生を初めとした地域経済活性化や人口減少対策、高齢者福祉の充実、道路、橋梁などインフラ施設の更新など、緊急に実施すべき事業が多数あり、必要に応じて国庫補助金や地方債の活用、財政調整基金の取り崩しも視野に入れ、バランスのとれた財政運営を行う。

### 順天堂大学の誘致について

**問** 選ばれるまち・ふるさと佐倉を創生していくため、ぜひとも佐倉市側が主導して順天堂大学の誘致という一大事業をなし遂げていただきたい。順天堂大学側から佐倉市に進出したいとの意向が継続していることを確認したとのことだが、その後、進展はあったのか。本当に順天堂大学を誘致したいという考えがあるのか伺う。

**答** 本市とゆかりのある順天堂大学の当市への進出の意向は、大いに歓迎する。順天堂大学からは進出の意向とともに施設整備の財政支援等も求められており、正式かつ必要な手続きを踏み、議会及び市民のご理解をいただきながら事務を進めていく。

### (仮称)佐倉西部自然公園の活用について

**問** (仮称)佐倉西部自然公園個別計画イメージ図に沿った公園整備には、地権者のご理解、ご協力が不可欠である。今後、民有地を市が取得すべきと考えるが、考えを伺う。

**答** 現時点では借地による公園整備を基本としているが、

必要に応じ、施設整備を計画している区域に関しては、地権者の意向を確認し、用地の買い取りや土地の交換についても検討する。

**問** 市長はこの土地に関して地権者の方と話をしたことはあるのか。

**答** 具体的な話は都市部の方に来てしていると聞いています。

**※市長が自ら携わらなければ地権者の方も納得しない話も進まないのではないかと市長は本腰を入れて、土地の地権者と直接、真摯に話し合いの場を持っていたいただきたい。**

### 農業の活性化について

**問** 今後も米価の回復が期待できない厳しい経営環境の中、市の中心的農業である水田農業の経営所得の安定化に向けてどのような対策を講じていくのか。

**答** 国交付金に市補助金を上乗せする形で、飼料用米や飼料用青刈り稲の作付推進、市の気候や土壌に合う多収性の飼料用米育種の取り組みなどを通じ、稲作経営の安定強化と所得の向上に努めていきたい。

※農業は市の大切な基幹産業であり、農業、農村の持続性や活力の確保は喫緊の課題である。生産者が安定的な営農を継続できるように確かな対策を講じ、必要な予算措置を着実に進めていきたい。

## 11月定例議会 代表質問



川名部 実  
議員

### 市長の議会対応について

**問** 議会の反対で補正予算が修正可決されるなど、市長と議会の関係がギクシャクしていると思うが、どのように評価しているか。

**答** 緊張関係がやや強くなっているように感じている。本年6月定例会で補正予算が修正可決された経緯は深刻に受け止めている。

**問** 部長答弁がやたらに多く、市長の答弁が少なくなってきたという印象を受ける。議会は一問一答制をとっているから、市長はもっと積極的に施策の内容に踏み込んだ答弁をすべきではないか。

**答** 議場での答弁は、説明責

任の最たるものであると考えており、積極的な答弁に努める。

### 教育の政治的中性について

**問** 義務教育の政治的中性は、何としても確保されなければならぬ。法改正により市長が義務教育に関する道が開かれたが、政治的中性は確保されるか。

**答** 義務教育に関する業務は、今後とも独立機関としての教育委員会が管理・執行していくので、中立性は保たれる。

**問** 機関としてのPTAの政治活動は許されるか。教育長の見解を伺う。

**答** PTA活動は、政治的中性の原則に基づき活動していくことが重要である。今後、政治的中性を厳守して活動するよう指導していく。

### 後期基本計画について

**問** 計画は、これまでと変わり映えせず総花的、抽象的である。国の地方創生戦略に沿って策定しようだが、喧伝してきた地方分権の趣旨に反するのでは。

**答** 国の指針に基づき人口ビジョンを策定した。

### 高齢社会対策について

**問** 団塊世代の高齢化を受け

て、介護保険制度の見直しが進められているが、その中核となる包括ケアシステムの構築の道筋をどの様に描いているか。

**答** 10年後を見据え所要の体制整備を進めていく。まずは、地域包括ケアシステムを構成する、医療、介護、予防、住まい、生活支援の5つの取り組みを個々に充実していく。

**問** 今後、日常生活に支障を来す高齢者が多くなることが想定される。自治会、まちづくり協議会や各種団体に働きかけ、コミュニティーの総力を挙げて、高齢者支援体制を築くべきでは。その観点から市民協同事業も見直すべきではないか。

**答** 高齢社会への対応は、これまで以上に地域の環境や実情を熟知した市民の協力が不可欠である。今後、地域と行政が手を組んで、きめ細かな対応が行えるよう努める。

### 大学誘致について

**問** 議会が大学誘致に関する意見書を採用してから3年が経過した。市長は誘致するつもりだが、答弁は毎回同じで積極性を感じない。順大が諦めるのを待っているのではないか。

**答** 必要な手続きを踏み、議会及び市民が納得するような形で誘致を進めていく。



# 8月定例議会 個人質問



敷根 文裕  
議員

## 市長公用車 運用について

**問** 公用車の運転日報と出張命令簿が非常に見辛いが書式は以前からこうしたものなのか？また市長専用車の利用は公務のみに限られるのか？

**答** 命令簿は最も遠隔地の物のみを記載しており車両は公務に使われる。

**問** その答弁ではどこに立ち寄ってどのように走ったのか全くわからないが経路は書いてあるのか。

**答** 報告については出張先の最も遠隔地を記載しており、それ以上の記録はない。

**問** 税金を使い公務として行っているのにその記録が285キロ走ってどこに何しに行ったかの記録がないというのは無責任ではないか。

## クリスマスディナー ショーについて

**問** 後に発覚した公務として

行った43200円のディナーショーだが市長はチケット代の支払いはどうしたのか？

**答** チケット代は銀行振り込みをして支払いをしている。

**※公務として行っており公用車を使用しているのにショーのチケット代に関しては自費で負担している。そのため決算でこの数字は表示されない案件となっていた。行き帰りは「公務」現場では「プライベート」と取られかねない。果たしてそれが公務と言えるのだろうか？**

## 11月定例議会 個人質問



敷根 文裕  
議員

## 市長決裁について

**問** 地方公務員採用は26年度の佐倉市では社会人の倍率33倍という就職人気である。そんな中、職員採用試験を受けずに市長の判断で正職員になった方がおり、この方がある「市議会議員の身内」ということを市民、職員から話を聞き「あまりに不公平ではないか」という問い合わせが複数

あったのだがこちらは事実か？

**答** 親族関係についてはプライバシーのためお答えできません。

**問** 地方公務員の生涯賃金は約2億6千万円と言われており市長のハンコ一つでこれだけ多額の税金が使われる。市民から預かっている多額の税金を使い市民から疑問に思われたことを隠すこと自体がおかしいのではないか？

**問** 資料を見ても市長決裁で選挙直前の4月1日付けで採用試験を受けずに正職員にしているのは異例としか思えない。ではこの方の経歴や資格など採用理由を詳しく教えてください。

**答** 個人情報についてはお答えできません。

**※皆さまからお預かりしている税金を使う公人である以上、疑問を持たれるような行動は厳に慎むべきである。試験を受けずに職員となったのにも関わらず経歴や資格すら議会で答弁されない。一般試験を受けて市の職員になれなかった人達やその家族の心情を思うとやりきれないものがある。この説明で約2億6千万円もの皆さまの税金を使うことに市民の皆様は納得がいくだろうか？**

\*\*\*\*\*  
「8月定例会分の質問はHPよりご覧下さい。文字数の関

## 11月定例議会 個人質問



為田 浩  
議員

## 学校現場と子ども達を 取り巻く環境について

## 長嶋茂雄少年野球 教室について

**問** 昨年度も今年度も参加資格が市内の小学5・6年生に限定されていた。中学生にも参加の機会を設けてはどうかと考えるがいかがか。

**答** 今後は市内の中学校の野球部員にも、長嶋さんや講師の方と接する機会をつくってまいりたいと考えている。

## 2020年 東京オリンピック・ パラリンピックを 目前に

**問** 市として予算を組んで人

材を発掘し、希望者には積極的なバックアップ、育成体制を整えて、「佐倉から東京五輪でメダリスト」のようなプロジェクトを立ち上げてみてはいかがか。

**答** 市には、人的、金銭的な面などから限界があり、国の専門機関に委ねることが現実的と考える。

## 通学路の安全安心に ついで

**問** 青パトにより行われている登下校の安全パトロールについて、下校時については増車すべきと考えるがいかがか。

**答** 市内各防犯団体や警察と連携を図りながら現在の防犯体制で通学路の安全確保に努めていきたいと考えている。

**問** 子ども110番の家の位置付けについてどのように扱われているか伺う。

**答** 地域の方の協力を得て緊急事態には、子どもが駆け込むように指導している。子ども110番のプレートがあることにより犯罪を抑止する大きな効果も生まれている。

## 教育委員の任命に ついで

**問** 新たな教育委員会制度のもと初めて新しい教育委員を募集していたが、募集の在り方について適切な周知、広報が行われていたか伺う。

**答** 「こうほう佐倉」と市のホームページを活用して周知した。しかしながら、公民館、図書館などの教育施設に公募のポスターを掲示する方法、または広報番組などの手段もあるので今後は状況に応じた広報手段を適宜選択し、広く市民に伝わるよう検討していく。





# 後期基本計画への移行について

## その根拠について

昨年11月30日の全員協議会で、市長より「前期基本計画から後期基本計画へ移行するにあたって、3点見直しをした」旨の報告があった。即ち①人口減少・少子高齢化問題、②前期の取り組みと現状の課題の検証及びその内容の更新、③計画期間の首長任期との連動による1年間の短縮と検証を踏まえた基本施策の再整理が、その3点であった。

①では、佐倉市の人口問題を喫緊の課題と捉え、具体的には、平成23年の178,199人をピークとして、平成31年では、175,636人を見込んでいた。しかし、この根拠は「総合戦略策定懇談会」でも議論になり、出生率の改善、20〜30代の転出超過抑制及び、50〜60代の転入超過促進により、177,092人と約1500人多い人口を見込み数とした。この予測は、最初に想定した数字に合うように、根拠となるデータを入れ替えているだけのようになっている。資料の恣意的利用は、結論を誤る。

次に②では、前期の課題の検証とその内容の更新だが、「こうほう佐倉新年号」によれば、市長は「その一例として、印旛沼周辺の活性化」をあげている。その上さらに、前期の柱であった「歴史・自然・文化」を繰り返し強調している。今期のメイン・テーマの子育てについては、3分の1程度の説明で終わっている。前期の検証で見落とせない課題の1つは財政問題であろう。毎年20億円前後

の地方債が、平成26年度に約37億円の増額している。扶助費の平成22年以降の大幅な増額という非主体的な説明だけでは、内容の更新とは言えない。

さらに、今期の「分野別計画」の中のそれぞれの「現状と課題」において、結びの文章が「〃〃の必要があります」で終わっているのは、問題があるのではないのか？勿論だからこそ、その実現のために「基本方針」があり、諸「施策」があるのだから、それぞれの課題は「計画をめぐる背景」即ち現状分析を踏まえている筈である。人口・財政については前述したが、産業構造（農業・工業・商業・観光）も、それぞれ重要課題を抱えている。それらは、全て「〃〃する必要がある」ことも事実であろう。しかし、それらを「推進」「健全化」等の一般的表現で、乗り越えられるのだろうか。

最後に、首長の任期と連動させて1年短縮した問題だが、これは最初の市長の報告を聞いた時点で、ダブル・スタンダードに陥る危険性があることを指摘しておいた。限られた時間の中で事業を行うには、首長の夢と現実との接点の中で、優先順位を明確にしなければならぬ。要するに、価値基準がゆれる中で、実現に都合の良い資料をそろえるだけでは、再び「課題」の検証とその内容の更新をすることになりかねないだろう。

今回は、議会側にも討論の方法論等について、反省すべき点もあったと認識している。今後、後期基本計画の事業を進めるにあたって、さらに議論を深めていきたい。

## 意見交換会を開催

佐倉市議会は11月10日(火)、佐倉市役所議会棟を会場として「平成27年度佐倉市議会意見交換会」を開催しました。

今回は「学童保育所について」をテーマに、現在市内に32施設ある各学童保育所の運営法人代表、施設長、学童保育指導員の方々とグループにわかれ、現状や課題、それぞれが日々感じていることや市への要望等、闊達な意見交換を行うことが出来ました。(後日、佐倉市議会ホームページなどでも掲載・報告があります。)

## 佐倉市議会 8月定例会

# 平成26年度 歳入歳出決算を認定

8月定例会では平成26年度佐倉市一般会計、各特別会計及び公営企業会計の決算の認定が決算審査特別委員会にて4日間にわたり慎重に審査された。決算審査の過程では、一部疑問点が残った。

「主要施策の成果」の説明の中では過年度から定型化しているものが多く見受けられ、また、評価や比較については、本来客観的な判断を下すために数量的な表記が多くなり、改善を求めたい。その一例がプレミアム商品券発行事業であり、数量的効果を示さず、ただ「やりまし

た」では今後、税金の使い道として、市民の理解は得られないであろう。また、決算審査1日目の会派からの質問で市長が公用車を使ってディナーショーに出席したことが判明した。この件については、公務としながらも、その具体的な中身について秘書課は明らかにせず、さらに、公務であるにもかかわらず、市長も「どこで誰と会い、何をしていたかはお答えできない」と不誠実な答弁を繰り返す始末であった。しかし、2日目の教育委員会への質問で、同行したという教育

長に対して同様の質問をしたところ、具体的な内容についての明確な答弁があった。なぜ、担当課によって答弁に差があったのか。公務としながらも、その経緯

内容を明らかにせず、十分議会に説明をしない理由はなぜなのか、疑問が残る。そして、市長、教育長が共に公用車でディナーショーへ行ったことも、公私混同の疑惑をもたれても仕方がないことであり、襟を正すべきである。また、会派からの志津自然園への質問でも、新たな事実と疑問が発生した。さらに、市長決裁による人事採用があり、顧問弁護士

の任用について、職員の答弁が二転三転する場面もあった。二元代表制では、ともに住民を代表する首長と議会が、相互のけん制・抑制と均衡により、対等の機関として緊張関係を保ち続けることが求められている。首長に迎合するのではなく、議会がそれぞれの議案に対して、意思表示を明確にするのは当然である。

市長は、議案等に関して議会に説明責任を果たさなければならぬ。今回のように疑問が次々と湧きあがってくるような状態では、市長の説明責任は果たされていないといえるべきだろう。

議会には正しい情報が提出されなければならぬ。与えられる情報が不十分であれば、私達議員が正しい政策立案・監視・議決の機能を果たすことは出来ない。今後も厳しく対応していかねばならないということに改めて痛感した。

## 佐倉市議会 さくら会

「さくら会」は、地方分権が進む中で、議員の倫理及び資質を高めて、佐倉市議会のより一層の充実を図るとともに、快適で安全な佐倉市を創ることを目的とする。

「さくら会会則第3条」

- 会長 清宮 誠
- 幹事長 櫻井 道明
- 議長 押尾 豊幸
- 副議長 石渡 康郎
- 議員 中村 孝治
- 議員 川名部 実
- 議員 山口 文明
- 議員 村田 穰史
- 議員 爲田 浩
- 議員 平野 裕子
- 議員 高木 大輔
- 議員 敷根 文裕

## 編集後記



櫻井道明

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。さて、全国的に地方創生が叫ばれている中、佐倉市においても、人口ビジョン、地方版総合戦略が策定されました。

今後、活力ある地域社会の創成が期待されますが、効果的な対策がとられているかをしっかりと監視し、的確な提言をすることが、我々議会の果たすべき役割であります。私達「さくら会」は、佐倉市のために全力を注ぐ決意でありますので、今後とも更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 議会を傍聴してみませんか

- 議会運営委員会 ..... 2月16日(火)
- 初日 ..... 2月22日(月) 午後1時から
- 一般質問 ..... 2月29日(月)~3月3日(木)
- 常任委員会 ..... 3月7日(月)~10日(木)
- 予算審査特別委員会 ..... 3月14日(月)~17日(木)
- 最終日 ..... 3月22日(火) 午後1時から

☆日程は変更になることがありますので、議会事務局 ☎484-6279 事前にお問い合わせください。

ケーブルネット296では、初日・一般質問・最終日の模様を翌日午後5時30分から放送します。

【地上デジタル112チャンネル、デジタルCATV301チャンネル】

## 2月定例会の予定